

1. 件名

研究開発分野におけるロジックモデル等の高度化に関する国内外の動向調査

2. 目的

近年、我が国では、証拠に基づく政策立案(Evidence Based Policy Making, EBPM)に関する取組が行われ、その重要性は益々高まっている。国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下「NEDO」という)においても、研究開発プロジェクトのインプットからアウトカムまでの道筋を示したロジックモデルを作成し、事業終了後の社会実装までの流れをプロジェクト開始時から共有することで、波及効果までを念頭に置きながらプロジェクトを推進・評価している。この時、より適切なロジックモデルを作成できれば、プロジェクトの成果をこれまで以上に最大化し、より早期に社会実装できることが期待される。

そこで、本調査では研究開発分野等におけるロジックモデル高度化に貢献することを目的として、欧米の先進事例の収集・分析を行う。また、海外の専門家を集め、最新の情勢を踏まえてロジックモデル高度化等につながる議論を行う。これらの取組から得られた知見をとりまとめてNEDOのロジックモデルに適用し、その高度化手法について示唆を得る。

3. 内容

上記の目的を達成するために次の項目を実施する。各項目の実施にあたっては、NEDO との密接な連携の下で行うものとする。なお、2024年2月末までに中間報告を行うこと。

(1) 欧州及び米国等におけるロジックモデル等の先進事例の収集

EBPM が提唱され発展した欧米を中心に、研究開発分野におけるロジックモデル等の作成方法や活用事例について最新の動向を収集し、整理する。

(2) 日米欧国際ワークショップの開催

欧州及び米国からそれぞれ専門家を招き、ロジックモデルの最新事例を報告する日米欧国際ワークショップを開催する。ワークショップは次のような時期や規模を想定し、具体的には NEDO と相談の上決定する。なお、専門家の招聘に係る業務(航空券手配・宿泊手配含む)は本調査に含むものとし、参加者等へのアンケートを実施する。

(ワークショップのイメージ)

時期:2024年1~2月(半日程度)

規模:60名程度(会場参加)

会場:NEDO 霞ヶ関分室会議室

形式:対面とオンラインのハイブリッド開催

(3) ロジックモデルの高度化に関する分析

(1)及び(2)で収集・整理した海外の理論構築(ロジックモデル等)手法について、NEDO のロジックモデルに適用し、その高度化につながるように分析する。

4. 調査期間

NEDO が指定する日から 2024 年 3 月 31 日まで

5. 報告書

提出期限:2024 年 3 月 31 日

提出方法:NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容:「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

6. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

7. その他

(1) 本仕様書に定めなき事項については、NEDOと実施事業者が協議の上で決定するものとする。

以上